

ユネスコジオパーク・ユネスコエコパークと地元企業や大学との連携策

金沢大学 人間社会研究域 人間科学系
青木 賢人^{たつと} 准教授 理学博士



研究分野

ツーリズム 地域資源 持続可能性 環境保全

ユネスコジオパーク・ユネスコエコパークは、ユネスコの世界遺産と並ぶ重要なプログラムである。図1に示すように、基礎となる大地の上に生態系が成立し、これらがもたらすサービスを利用しながら人間社会が成立している。この構造を適切に保護・保全し、将来世代に引き継ぐための活動が前述の3プログラムであり、ジオパークが基層部分を、エコパークが生態系を、そして世界遺産が人間社会を主に担当している。ただし、世界遺産が保護を極めて重視しているのに対し、ジオパークではツーリズムを、エコパークでは第一次産業を、それぞれ基軸とした産業振興を通じた地域の持続可能性と環境保全とを両立させることを指向している点で大きく異なっている。

石川県では、白山市がユネスコエコパークに登録されているとともに、ジオパークに関しても同プログラムの国内版である日本ジオパークに登録されている(図2)。このことは、白山市が有する大地や生態系の価値が世界的に高く認められていることを示しており、この特性を活かすことによって、世界的価値を裏付けに持つツアーや商品の開発が可能となり、他地域の商品との差別化を図ることができるようになる。ツーリズムがマスから個別化へ、消費行動が二極化へ移行し、商品に高い付加価値が求められている状況下で、ジオパーク/エコパークを用いた地域ブランディングは、域内商品の統一的なマーケティングや連動的な消費行動の励起に効果的である。

ただし、ジオパーク/エコパークそのものが、大学や研究機関と連携した学術的な価値の裏付けを必要としていることから、ジオパーク/エコパークブランドを用いた商品開発にも「なぜジオパーク/エコパークの商品たり得るのか」という論理的説明が不可欠となる。また、保護・保全を基軸に置く活動であることから、付加価値の源泉となる地域の大地や生態系に対し、不可逆的な負荷を掛ける活動は厳しく制限される。青木研究室では、白山市内でジオパーク、エコパークのプログラムの趣旨に賛同し、ツアーや商品開発を行いたい、あるいは、開発に際して環境負荷を回避しプログラムとの整合性を持たせたいという企業等に対し、学術的な支援を行うことが可能である。



図1 大地・生態系・人間生活の関係性 (白山手取川ジオパークHPより引用)

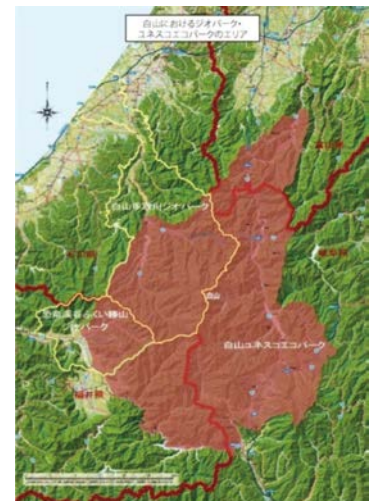


図2 白山手取川ジオパークと白山ユネスコエコパークのエリア
白山市のうち、濁澄橋より上流の旧天領の地域はジオパーク/エコパークの重複登録地域となる予定(現在のエコパークのエリアは白山国立公園の範囲)

応用分野

地域ブランディング、地産地消、着地型ツーリズム、CSR

連携を希望する企業の業種・技術

地域系コンサルタント、観光系企業、環境・土木系企業、食品系企業、農業法人